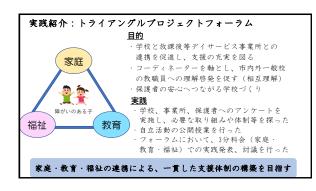
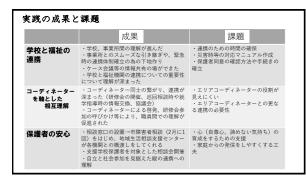
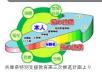
家庭・教育・福祉の 連携から見えた 地域づくり





実践のなかで学んだこと 障がいのある子が地域社会で自立していくために



- 学校だけではできないことでも、いかに地域や福祉とつながるかで、子ども自身の選択や世界が広がるのか、という可能性を見出せた。
- ・性質が違う場だからこそ、相互理解が必要。 ・現在では本校のオープンスクールや研修会 にも多くの放デイ支援員や福祉関係者が訪れる。学校について理解をしてもらう機会、場 を提供することの重要性。
- 保護者が安心できる学校づくり→多方面の視点をもち、横の連携を強化することで、安心できる地域づくりを

実践の今後に向けて

エリアコーディネーターを巻き込んだフォーラムを

まだエリアコーディネーターの存在が十分に知られていなかったり、役割や強みを生かせる部分が少なかったりするのが現状。センター的機能をもつ特別支援学校を中心として、エリアコーディネーターと更に連携し充実した研修会をもつ、エリアコーディネーターとしての視点から家庭・福祉・教育への助言をもらう等、場を設定していく必要がある。

- •フォーラムでの調査と実態から、よりよい具体策を実現する。
- 家庭・福祉・教育の連携を長期的に継続させ、成果と課題を見極めながら具体策を出し、より良い支援ができるようにしていく。

地域支援づくりへの提案

①いくつかある扉のうち、一番叩きやすい扉を叩けるように…

1人で悩みを抱え込んでしまう保護者の為、様々な窓口を用意する→それぞれが連携しており、万全のサポートができる体制が地域として組んである。エリアコーディネーターにも助言がもらえるような場を設定する。

②コーディネーター同士の縦の連携の強化

学校現場での悩みを相談、サポート、助言してもらえるよう、素早い対応ができるようにする。 エリアコーディネーターと市内コーディネーター会議の開催

③学校現場の福祉事業所訪問

福祉から学校への訪問は増加しているが、逆はまだ少ない。現在の長期 休み中の巡回に加えて、事業所側の話もきけるような場の設定や訪問時間 の延長、福祉事業所研修、ケース会議の参加(相互に)が必要